

## 「五観の偈」

一には、功の多少を計り彼の来処を量る。

この食事がどのような出来たかを考え、自然の恵みと多くの人々の働きを思い感謝致します。

二には、己が徳行の全欠を付って供に応ず。

自分の行いが、尊い生命と労力で出来た食を頂くに価するものであるか反省し、供養を受けます。

三には、心を防ぎ過を離るることは貪等を宗とす。

心を清浄に保ち、誤まった行いを避けるために、三毒である貪（貪り）瞋（いかり）痴（おろか）の三つの過ちを持たないことを誓います。

四には、正に良薬を事とするは形枯を療ぜんが為なり。

まさに、食は良き薬であり、身体を養い、健康を得るために頂くのです。

五には、成道の為の故に今此の食を受く。

仏の道を実践するために、この食事を有り難く頂戴致します。

令和三年九月三十日

加茂法話会

寒河江 文洋